

石狩湾系ニシンの漁況予報

北海道立総合研究機構 中央・稚内水産試験場
令和元年 12 月 12 日

石狩湾沿岸における今漁期（令和2年1～3月）の漁況は次のようになる見通しです。

- 漁期序盤（1月）：5年魚（2015年級）と6年魚（2014年級）の大型・高齢群が主体となり、来遊量は昨漁期並み～若干上回る見通しです。ただし、この時期の漁況は水温分布などに大きく影響されます。
- 漁期中盤（2月）：4年魚（2016年級）主体となり、来遊量は昨漁期を上回る見通しです。
- 漁期終盤（3月）：3年魚（2017年級）主体となり、来遊量は昨漁期を上回る見通しです。

本年10月に留萌沖で実施した試験調査船「北洋丸」によるトロール調査の採集物は、尾叉長29cmにモード（最頻値）のある4年魚（2016年級）が38%、尾叉長24cmにモードのある3年魚（2017年級）が36%と大半を占めました（下図）。このトロール調査で採集されたニシンの年齢別尾叉長組成のうち約25cm以上の組成は、その数ヶ月後の沿岸における刺し網の漁獲物組成ときわめて似ていることから、この結果を用いて今漁期の来遊状況を予測しました。

これまでの漁獲実績に基づいた資源計算とトロール調査の採集状況から、各年齢の資源量を昨漁期と比べると、6年魚は昨漁期まで漁獲の主体となった2014年級であり豊度が高いことから「増加」、5年魚は2015年級であり昨漁期（2014年級）に比べると「減少」、4年魚と3年魚は「増加」と予測されました。漁獲主体となる4年魚以上の資源重量としては、昨漁期より増加し2009年度から続く高い資源水準にあると考えられます。

漁模様は漁期直前の海況に大きく左右されるため、今漁期も地域間で好・不漁感の違いが大きくなると予想されますが、石狩湾沿岸では水温分布等に大きな異変がなければ、漁期序盤（1月）は6年魚と5年魚主体の漁となり、中盤（2月）は4年魚、終盤（3月）は3年魚に来遊の主体が移り、漁期を通して昨漁期並みから昨漁期を上回る来遊があり、特に中盤～終盤にかけて来遊が多くなる見通しです。

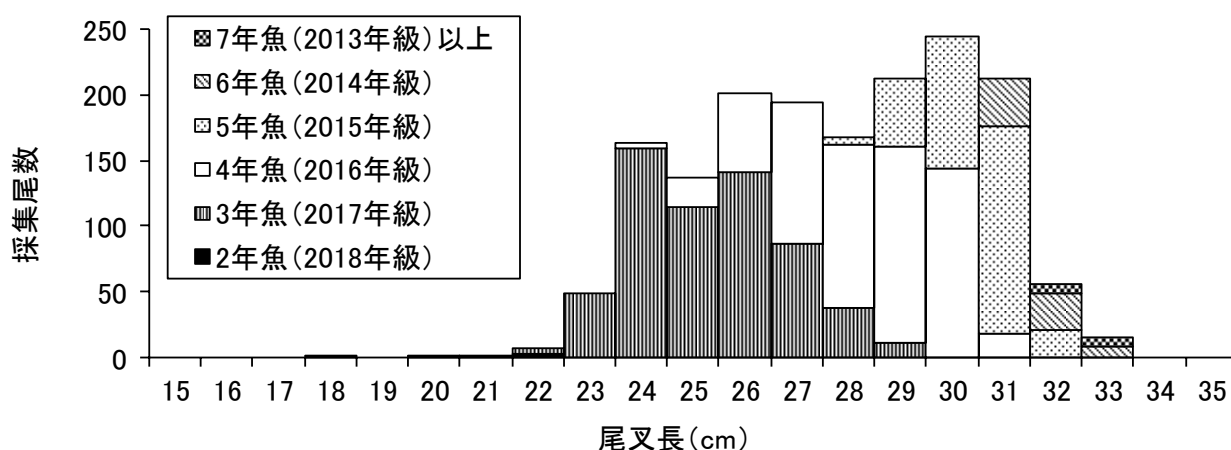


図 本年10月に留萌沖のトロール調査（北洋丸実施）で採集されたニシンの年齢別尾叉長組成

お問い合わせ：中央水試資源管理部（☎0135-23-8707）